



みはら市民大学 ふれあい

第101号
発行・編集
みはら市民大学
ふれあい新聞
編集委員会
電話 64-6868

「ふれあい」新聞に夢を託す

学長 植木 章弘

伝統の「ふれあい」新聞が、一〇〇号の舞台を越えることとなりました。第一号が阪神大震災のあつた平成七年ですから、四半世紀を越えて学びの絆と喜びを繋いでいただいたものです。これまで発刊に携わってくださった方々に心から敬意と感謝を申し上げます。

「みはら市民大学」の名称で初めて発刊された新聞では、岡田市長さんが「祝辞」をご寄稿くださいました。「年齢に関係なく、生涯青春の気概を持って学習に励んでください」と激励をいただきました。このことは、コロナ禍で我慢続きの学生さんには大きな力でありました。

何よりうれしかったことは、多くのみなさんが新しい学習環境で学ぶことの喜びを語っておられることです。yoga「ヨガ」や「吹矢」等、今年開設した新講座で学ばれている学生さんが、新講座の楽しさを語っておられました。大変興味深く、みなさんの参考になったことでしょう。「ふれあい」新聞は、私たちの貴重な財産であり誇りです。いつまでも愛されるお互いの絆であります。

移転後の「みはら市民大学」

はより広い世代が集い、学びを楽しむ大学になることは必須です。新しい時代にふさわしい学びの場として、多くの市民に喜び、三原市に貢献できる大学であってほしいものです。

この「ふれあい」新聞が「みはら市民大学」の新しい歴史を創り上げていく礎となることを強く願っています。

後期高齢者の仲間入りに備えて

院。パソコン◎ 和田 實夫

仕事を完全にリタイアして五年が経ちます。家でブラブラできずまず始めたのがジム通い。備後運動公園や、三原リージョンプラザのトレーニング室やプールに通い、時々山登りをする生活になりました。また四年前から老人大学(今年からみはら市民大学)にパソコンを勉強のため通い始め、生活のリズムを整えてきました。ところが今年

は三月ごろから、コロナの感染が始まり大きく生活パターンが崩れてしまいました。外出が自粛ムードとなり、ジムやプールは閉鎖されました。それでも三月は近くの低山を一人でハイキングしたり、早朝に自宅付近をウォーキングしたりで体調維持に努めました。緊急事態宣言

が全国に発令された時期は外出は買い物だけになってしまいました。五月二十五日に全国の緊急事態宣言が解除され徐々に生活が戻ってきましたが、元のよう

に自由を謳歌することは不可能です。外出時はマスク着用、外での飲食も制限がてんこ盛り。いつまでこの生活が続くのか考

えると気持ちが沈んできます。まもなく後期高齢者の仲間入りです。いつかは普通の生活に戻ることを信じて一日一日頑張



健康ウォーキングに参加して

院。パソコン◎ 元永 眞子

十一月十五日三原市主催の健康ウォーキングがあり、中之町学校林までの五キロのコースで私達夫婦は参加しました。参加希望人数は五十人でした。三十四人でスタッフを入れ六十名くらいの参加がありました。

知らない人と話して行く途中、三原市長が参加されていて若いエキスを貰いました。幼少期中之町で過ごされていたことなど「思い出の場所ですよ。」と気軽に話されていました。



「また場所は違うけれどして参加してください。」とスタッフさんが話されていました。来年は皆さん参加しませんか?

今年に思う事

院。パソコン◎ 梶本 昌代

今年もあと少しで終わろうとしている。なんとなく後味の悪い一年だった。

新聞を読んでいると編集手帳に心に残る文章が目にとまった。《立ち寄った喫茶店でジョンレノンの「ハッピークリスマス」が流れていた。戦争は終わるのだと優しく呼びかける副題がついていたのを思い出し歌詞を見直してみた。

《クリスマスがきたね 今年はどうなことしたんだい? 今年ももう終わり/新しい年が始まるんだね:君が楽しんでいるといいな/身近な人も、大切な人も/お年寄りも、若い人も》副題にある戦争はもちろん、コロナとの戦いのことではないけれど、亡きジョンが今年のために作ってくれた歌のように聞こえる」と結ばれていた。

今年、コロナに振り回されて心に余裕もなく殺伐とした気持ちで終わりそうであるが、それでも明日に希望を持ち進みたいものである。



コロナ禍の中で
院。パソコン◎ 保科 静香

今年、ダイヤモンドプリンセス号のコロナウイルスに始まり今まさに全国各地、いや世界中で猛威を振るい患者数は増加するばかりで年が明けた。

毎日、テレビはどの局もコロナの放送ばかり。私もコロナのために規制されたり取りやめになったことが多かった。通っているジムや武道館も休業や規制を余儀なくされ、毎年高校時代の友人で行く旅行も、クラス会も、年に一回しかない京都の演武大会(試合)も。一番は、母の四十九日彼岸、お盆の帰省まで我慢だったこと。しかし、テレワーク、リモート、休業を強いられたり廃業、職を失った人、オンライン授業の学生達、みんなそれぞれ厳しい中を何とか乗り切ろうとがんばっています。

一番忘れてならないのは医療に携わっている方々。逃げられない現実の中で懸命に戦っておられ、感謝の念に堪えません。いま私たちにできること!! 手洗い、うがい、マスク着用はもちろんのこと、三密を避けこれ以上の感染拡大させぬこと、一日も早い終息を祈るばかりです。

銀杏の想い出

院。パソコン◎ 越智 篤子

とあるエッセイに、イチヨウは元来日本にはなかったといわれ、平安期の枕草子や源

氏物語等の書物にも記述がない
超えるという大木はほとんど
が言い伝えではないかという
記述がありました。

幼い頃、家の近くの神社に
大きな銀杏の木があり、お祭
りのころには落ち葉をたくさ
ん拾って遊んだものです。

ギンナンがイチヨウの実で
あるのを知ったのは、三原に
嫁して来てからでした。

秋から冬に踏み出すための
黄葉の季節が私は大好きです。



『四方の枝銀杏落ち葉に
影きざむ』

内藤紀子 作

院パソコン◎ 伊達 貴子

コロナ禍の中で

今年の前半からコロナ感染の
怖さを報道していたのに

【Go Toトラベル】が始まると
今度はどうだけお得かという報
道に変わり、利用したいと思っ
ただけ、年齢や諸事情を考えや
めました。今となつては、これ
でよかつたとほつとしていま
す。外出が減つてパソコンの復習す
る時間も増えました。

早くコロナが収束することを
願う毎日です。

学ぶに遅すぎは無し

院パソコン◎ 大原 富子

初めてパソコン教室に入門し
た時アイウエオ順で席が一番前
でした。「パソコンを立ちあげ
てください。」の先生の声に「ハ
イ」と答えてスクッと立ち上
った私のことを、院パソコンに
なった今も笑い話に出る：その
ような私でした。初めて見るパ
ソコン、初めて触るパソコンで
した。ローマ字さえ忘れかけて
いた私は、短い文章も時間を掛
けないとダメで美容院が病院に
なつたりしました。

今では食材を知人から戴いた
時等、『直ぐにパソコンでその
調理法を調べる』『印刷して見
ながら料理する』ことができま
す。町内会の老人会長を平成一
九年から押しつけられ回覧と名
簿ができたらと思つていました
が、パソコンが今では遊び友達
のようです。

一九三九年生まれの高齢者に
先生は勿論ですが、教室の友人
が何かと良く面倒を見てくださ
つたおかげで友の有り難さに感
謝しています。何を学ぶにも遅
すぎはない。その氣に成つた時、
夢を持って学ぼう。

夫を失つて思うこと

院パソコン◎ 桶東 克子

私の夫は七月に他界しました。
毎年人間ドック受診をしていた
のに、病を見つけることができ
ませんでした。残念です。

入院当初は、病室にパソコン
を持ち込み自分の病氣について調
べたりしていました。とても死
が近いとは思えないほど元氣そ
うでした。しかし、七月になり、
食事ができなくなり、口内炎が
ひどくなり話すこともできなく
なり闘病生活に終止符をうちま
した。コロナ禍により家族でも
病室に入れなくて、本人はもち
ろん家族もつらく苦しい日々で
した。

夫に別れをしてから、ようや
く日常生活ができるようになり
私は今まで、夫にいかに甘えて
いたか痛感しております。ゴミ
捨て、家の周りの草取り、畑の
管理など皆、夫がしてくれてい
たのです。途方に暮れることば
かりですが、二人の子供や孫た
ちと助け合つて生きていきます。

積み重ねて

院パソコン◎ 村上 光子

今日はなんだか疲れたなと思
い返して見ると そう
だ！バタフライ
で泳いだんだ！
と思ひ出す。

泳ぎの中でエ
ネルギーを一番
多く使うのだそ
うだ。



顔も付けられない状態で始め
た水泳も三〇数年、今では何で
も泳ぐことができるようになった
ている自分を発見！上手ではな
いけれど、出来るようになった
ことがうれしい。少しづつでは
あるが、薄紙を積み重ねるよう

に今に至つたのだと思う。パソ
コンも同じようにいつの間にか
出来るようになっていけば、夢
の様な事を思い浮かべている。
が、未だに初心者の域の中に
いる。コツコツと努力するほかな
いのだろうと、気持ち新たに思
っている。

ボーと生きてる昨今

院パソコン◎ 中村 好子

ある秋の夕暮れ、若き女性が
車から「バック落ちましたよ」
と声かけがあり、見ればバイク
の足元のバックが消えていまし
た。有難うございますのお礼も
そこそこに引き返しました。

するとまた若き男性が、何処
に置いておけばと右左と見てお
られました。「すみません私の
です」とお礼を言つて受け取り
ました。

何というミス！ショックでし
た。当日リュックを背に、前か
ごには一杯の荷物、足元に不安
定な状態でバックを置いていま
した。危ないかなと予感はした
のですが、注意力散漫だったと
反省しています。バックには運
転免許証 健康保険証 財布
等々が入っていました。一番困
るのは免許証です。地元で手続
きすれば二週間！その間動きが
取れません。一瞬間は真っ白で
す。年齢のせいかと思う自分が
いて嘆かわしい限りです。いい
加減な気持ちで過ごしてはいけ
ない。氣を引き締めて物事を進
めて行かねば大変なことになる
と肝に銘じた反省と感謝の一件

でした。お若い方々本当に有難
うございました。

ボーと生きていてはなりません。
色々困難な事多々ありますが
ポジティブに生きたいと思
うこの頃です。

事務局だより

今年度、事務局では四月より
次の二名が着任しました。コロ
ナ禍により、入学式も中止にな
つたため、紹介が遅れましたが、
この紙面でご報告いたします。

新事務局員

岡田 文記

大島 孝則



市民大学事務
局でお世話にな
り一年が過ぎよ
うとしています。



学生の皆さん
の生き生きした
姿に感動してい
ます。

大学テーマ
にあるように、「学んで輝き、
伝えて輝く」よう、微力ながら
尽力してまいります。どうぞよ
ろしくお願いいたします。

編集後記

本年度は、コロナ感染症への
対応のため様々な行事が中止に
なりました。次年度の新たな出
会いと学びを楽しみましょう。
ふれあい新聞百一号は大学院
Cが担当しました。次号は大学
院Dの担当です。
よろしく申し上げます。